

令和7年度ながくて公共交通フェスタ開催レポート

イベント概要

日時 令和7(2025)年10月26日 10時～14時

場所 長久手市役所 第2駐車場

目的

- ・市内を走る公共交通の車両展示及び事業者のブースを設けることで来場者に公共交通についての関心を深めてもらう。
- ・市内各所の案内やマイバスルートを作成するブースを設けることで公共交通の利用促進につなげる。

内容

- ・バスやタクシーの車両展示及び乗車体験
(名鉄バス、N-バス、くるりんばす(日進市)、あさぴー号(尾張旭市)、瀬戸市コミュニティバス、新城名古屋藤が丘線「山の湊号」(新城)、つばめタクシー、カナレタクシー)
- ・リニモコーナー(グッズ販売、制服試着)
- ・N-バス乗り方講座、輪投げ、ミニボーリング(名古屋商科大学)
- ・プチトリップマップ×N-バス案内書配布、N-バスマイルート作成ブース
- ・路線図、チラシ、啓発品、ペーパークラフト配布
- ・デマンド型交通ブース
- ・五平餅、コロッケ、炊き込みご飯、ドーナツ、ドライフルーツ、珈琲等
- ・公共交通等のミニタオル販売

主催 長久手市、公共交通応援隊(市民団体)

協力 愛知高速交通(株)・(株)あんしんネットあいち・(株)香流運輸・名鉄バス(株)・尾張旭市・瀬戸市・日進市・新城市・コミュニティバス運行事業者・豊鉄バス(株)・名古屋市交通局・(公社)長久手市シルバー人材センター・N P O 法人楽歩・(福)あいち福祉会たかぎ作業所・(株)フォルツア ストーラーダ長久手・(株)マゼンダ サクラワークス・(一社)長久手市観光交流協会・名古屋商科大学

来場者数

約 600 名

イベント全体の感想

- ・イベント当日は雨が降ったりやんだりと不安定な天候ではあったものの、車両展示をスタンプラリー形式としたことで、来場者の8割以上に全車両を回っていただくことができ、多くの方に公共交通に触れていただく機会となった。

また、今年度は昨年度の車両展示に加え、新たに2台のバスにご協力いただいたことで、よりインパクトのある展示となった。乗車体験をされた方にとって、バスやタクシーの違い、内装などを間近で見ることで関心を深めていただけたと考える。

- ・今回初めてプチトリップマップ×N-バス案内書を発行し、あわせてN-バスマイルートを作成するブースを設置したところ、参加された大半が最寄りのバス停を把握していないという現状が明らかになった。実際に一緒にルートを作成する過程を通じ、バス路線だけでなく運行時刻や市内の各所についても知っていただく機会となった。

- ・昨年度に続き、今年度もリニモ・バス・タクシーなど多様な交通企画や物販、飲食販売を行ったことで、雨天にもかかわらず長時間滞在される来場者が多かった。多くの方に楽しんでいただけたものと考える。

当日の様子

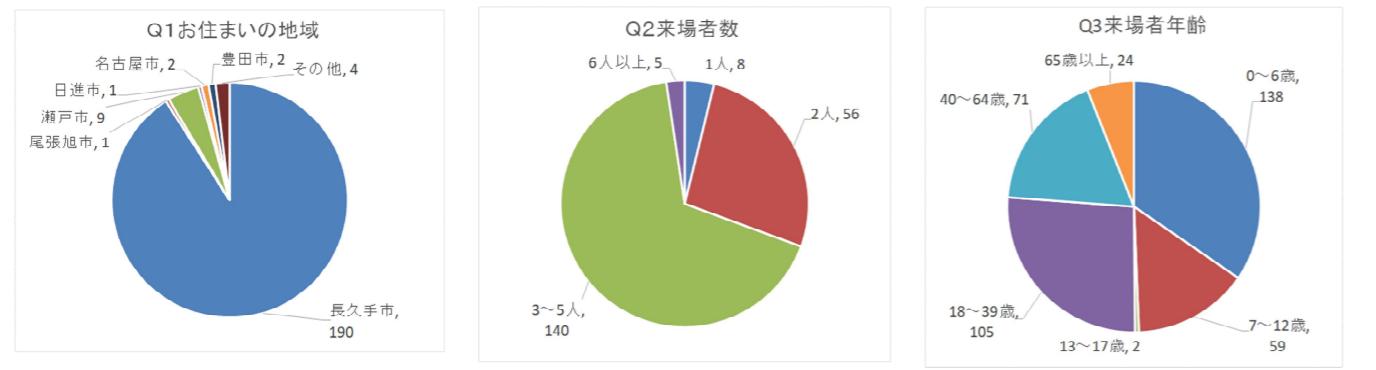


来場者アンケート結果

集計数 209名分 (紙: 201名、WEB: 8名)

【① 来場者層】

- ・来場者の居住地: 来場者の9割以上が長久手市であったが、近隣や県外からも1割の来場があった。
- ・来場人数、年齢: 「3~5人」が最も多く、年齢構成では「0~12歳」が5割、「18~39歳」が2割と子どもを中心とした家族連れでの来場が目立った。



【② イベントを知ったきっかけ・参加の回数・来場目的】

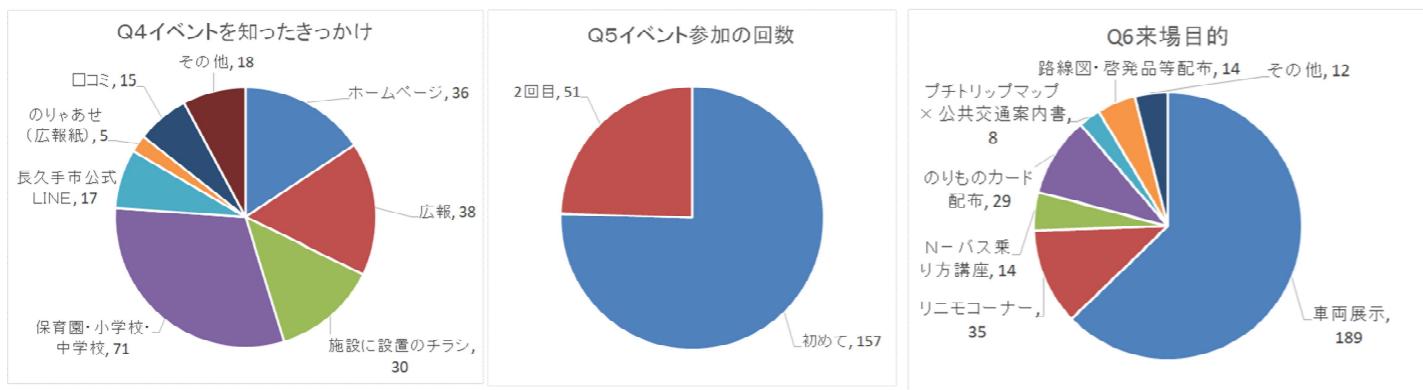
- ・イベントを知ったきっかけ: 「保育園・小学校・中学校からの案内」が最多 (約 31%)。次いで「広報」(約 17%)、「ホームページ」(約 16%)、「施設のチラシ」(約 13%)。

→教育機関経由の情報伝達が最も効果的であり、今後も主要な広報手段として重視できる。

また、今年は「のりやあせ」をイベント前に発行し、昨年度のイベントの様子を記事にしたことが有効であった。

- ・来場回数: 「2回目」が約 25% おり、新規だけでなく、リピーターがいることが分かった。
- ・来場目的: 「車両展示 (63%)」が圧倒的多数であり、次いで「リニモコーナー (12%)」「のりものカード配布 (10%)」が続く。

→車両展示がイベントの核となっており、集客の要であることが明確である。また、新規企画 (プチトリップマップ×案内書、乗り方講座など) も一定の参加を得ており、学びや体験型企画が関心を集めている。

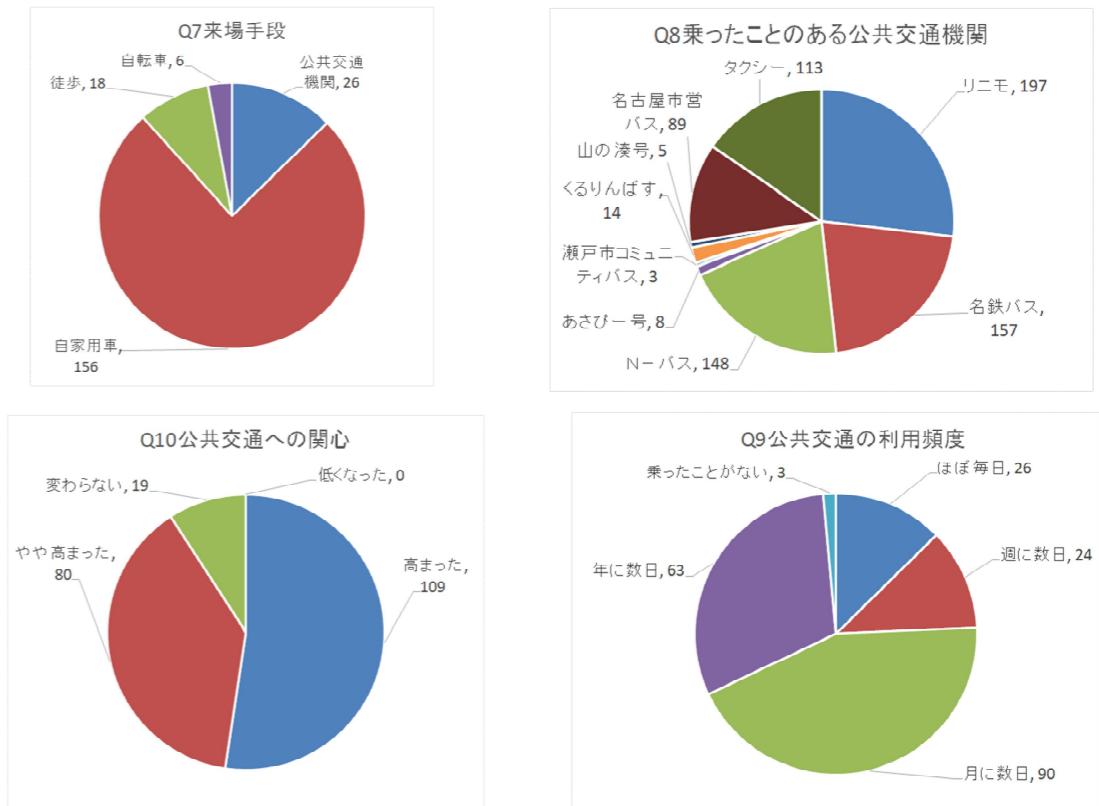


【③ 公共交通の利用に関して】

- ・来場方法: 「自家用車 (約 76%)」が最多で、次いで「公共交通機関 (13%)」「徒歩 (9%)」となつた。

→公共交通イベントでありながら昨年度も自家用車利用が多かったことから、今年度は公共交通 (徒歩含む) で来場された方に対して特典を設けたが、あまり効果は感じられなかった。(昨年度と比較して+0.2%)

- ・乗ったことのある公共交通: 利用経験がある方は地域内外の公共交通を複数回答されていた。
- ・利用頻度: 「月に数日 (約 44%)」が最多で、「週に数日」「ほぼ毎日」も合わせると約 2/3 が一定の利用経験を有する。
- ・関心: 「関心が高まつた (52%)」「やや高まつた (38%)」が計約 9 割を占め、公共交通への理解・関心を高めるイベントとなつた。



【④ 自由回答 (一部抜粋)】

- ・車両の数が多くて子どもも喜んでいました！バスが好きなんですが、普段なかなか乗る機会がないので有り難かったです。降車ボタンを押せたのが大興奮でした。Nバスは乗ってみたいですがなかなかタイミングがなかったので、車内の広さも実際に分かったので、ベビーカーなどの荷物を含めて乗る際の参考になりました。素敵なイベントをありがとうございます！
- ・今年も開催ありがとうございます。
- ・雨やどりができるテントがあって助かりました。Nバス以外は乗る機会がないので、コミュニティバスの遠いが体感できて面白かったです。
- ・運転席にも乗れて、子どもが喜んでいました^_^
- ・たくさん車をさわらせていただき、子供がよろこんでいました！！